

令和3年度
全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析



令和4年1月
鹿児島県教育委員会

はじめに

令和3年5月27日、全国学力・学習状況調査が全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われ、その調査結果が8月末に公表されました。本県における今年度の全国学力調査の結果については、小学校では、国語、算数ともに全国平均を上回り、中学校でも、国語、数学ともに全国平均との差を縮めるなど、各市町村教育委員会及び学校における取組の成果が、確実に現れてきたものと考えます。

また、昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、関係者の皆様におかれては大変な御苦勞があったことと思っておりますが、そうした中、様々な工夫を凝らし、子供たちの確かな学力の定着に向けて試行錯誤いただいた成果が、今回の結果に結びついたものと考えております。関係者の皆様の日々の御尽力に、改めて、感謝申し上げます。

一方、各市町村教育委員会や学校毎に調査結果を見ると、児童生徒の学力の状況や課題等はそれぞれ異なることから、各市町村教育委員会及び各学校におかれては、今回の調査結果を徹底的に分析し、成果や課題等を明らかにするとともに、教育指導の充実や学習状況の改善につなげていただくようお願いいたします。

そのためには、児童生徒の誤答傾向や学習状況等について分析を行うとともに、それぞれの教科や学年にとどまらず、学校全体で課題を共有し、これまでの授業実践や指導法等を振り返りつつ、どのような取組が更に成果を伸ばし、課題克服につながるのかを深く追究し、今後の改善策を具体的に検討していくことが重要です。

学力調査で測ることができる資質・能力は学力の一部であることは事実ですが、重要な学力の一部であることもまた事実です。このため、我々は、こうした数値や結果に責任を持ち、不断の検証・改善の努力をし続けることが求められます。そこで、本報告書では、可能な限り、具体的な数値等を示しつつ、継続して高い正答率を維持している県との比較等も行いながら、今後、本県として更に力を入れていくべき点等についても言及しました。このような比較をする中で見えてきたことは、継続して高い正答率を維持している県については、例えば、主体的・対話的で深い学びからの授業改善等の基本的な取組が当たり前のものとして定着していたり、学力についての正しい理解に基づき、主体的に学ぶ態度等も含めて、「確かな学力」の定着に向けた取組が総合的に行われていたりするということです。

県教育委員会としても、子供達の「確かな学力」の定着に向け、全力で取り組んでまいりますので、各市町村教育委員会及び各学校におかれましても、本報告書も活用しながら、引き続き、児童生徒の確かな学力の定着が図られるよう取組をお願いします。

目次

○ 県全体の調査結果〔公立〕

- | | | |
|-----|---|-------|
| 1 | 教科に関する調査の結果概要 | |
| | ・校種別の平均正答率 | 1 |
| | ・地区別の平均正答率 | 2 |
| 2 | 総括及び検証 | |
| | ・総括 学力向上の取組が県全体に浸透したことが結果に寄与 | 3～4 |
| | ・検証①学力向上を図る3本柱の取組は成果につながったか | 5～11 |
| | ・検証②「学力向上, その先へ」
～学力の更なる定着に向けてできること～ | 12～20 |
| | ・取組紹介 成果の見られた学校はどんなことに取り組んだか | 21～22 |
| 3 | 教科別, 観点別及び領域別の結果概要 | |
| (1) | 教科別正答数分布から | 23 |
| (2) | 観点別の平均正答率から | 24 |
| (3) | 学習指導要領の内容における平均正答率から | 25 |
| 4 | 指導法改善のポイント | |
| | ・国語【小学校第6学年】 | 26～27 |
| | ・国語【中学校第3学年】 | 28～29 |
| | ・算数【小学校第6学年】 | 30～31 |
| | ・数学【中学校第3学年】 | 32～33 |
| 5 | 本県の学力向上施策 | 34～36 |
- (参考資料)
- | | | |
|-----|------------------------|--|
| (1) | 児童生徒質問紙【小学校】の結果概要 | |
| (2) | 児童生徒質問紙【中学校】の結果概要 | |
| (3) | 学校質問紙【小学校】の結果概要 | |
| (4) | 学校質問紙【中学校】の結果概要 | |
| (5) | 学校質問紙【小学校】新型コロナウイルスの影響 | |
| (6) | 学校質問紙【中学校】新型コロナウイルスの影響 | |

○ 市町村別の調査結果

別冊